

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2018年2月号 vol.83
文責：志津匡人・長縄淳平 編集：櫻田亜矢子

こんにちは、緩和ケアチーム身体症状担当の呼吸器内科、志津匡人です。本年度も通信の原稿当番が回ってきました。今回は例年この時期に行われる緩和医療学会主催の教育セミナーにも参加できておらず、目新しいネタがなく、原稿が進まず困っております。

ということで、自己紹介もかねて、今私が仕事以外で頑張っていること、“剣道”について書かせていただきます。剣道は小学5年から始めて、大学卒業まで続けていました。その後就職してからは時間もなく、稽古する機会もないため、遠ざかっていましたが、次女が小5になるときに剣道を始めたいとのことで、再開に至りました。剣道を再開して感じるのは、やはり人の縁です。今までも剣道を通じた出会いは素晴らしいものが多く、ちなみに妻も剣道部の先輩の紹介で、出会いました。自分が一生懸命取り組むことを通じて出会える方々というのは、色々なことで刺激をいただき、それが普段の生活にも生かされることが多いように感じています。このように人の縁を感じながら、剣道を続けていますが、仕事を通じて会ったスタッフ、患者様、その家族も人の縁だと思っています。これからもその縁を大切に普段の診療を進めていきたいと思っています。



リハビリテーション科 理学療法士の長縄淳平です。



最近、自身の体調が優れず、家族や職場の仲間など周囲の人の温かいサポートに、身体的・精神的に大きく支えていただく機会がありました。その時の感謝の気持ちから、医療スタッフの一員という立場ではありますが、患者さんやご家族の身近な存在として、抱えている想い、希望に寄り添いながら、人間らしく尊厳をもって過ごしていただけるように協力させていただきたいと改めて感じました。緩和ケアでは、理学療法士という専門性から、身体機能の維持だけでなく、安楽・安全な姿勢や動作方法の指導、気分転換、療養場所の環境整備アドバイスなど、様々なケースでお力になれる機会があると思います。今後ともよろしくお願いたします。

緩和ケア勉強会開催報告

2/8(木) 第6回緩和ケア勉強会を開催しました。
今回のテーマは『認知症患者の緩和ケア』でした。
院内16名、院外17名、合計33名の参加がありました。

